全自動血圧計用定期点検キット
UM-1
取扱説明書

1. はじめに

本書の内容の一部、又は全部を無断で転載する事は著作権法により禁止されています。
本書の内容は，将来予告なしに変更する場合があります。
血圧計本体の注意事項については、血圧計本体の取扱説明書を参照ください。

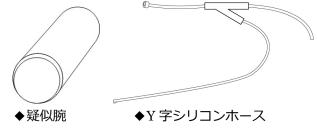
2. 安全のための注意事項

- 本品をお使いになる前に必ず本取扱説明書及び血圧計本体の取扱説明書をお読みください。
- 本取扱説明書及び血圧計本体の取扱説明書には，製品を安全に正しくお使いいただき，人体への危害や財産への損害を未然に防止するために図記号表示がされています。
- 本品は汎用定期点検キットではありません。血圧計本体により本品の使用が推奨されている場合のみ、点検を行う事が出来ます。
- 本品は、定期点検以外には使用しないでください。
- 点検手順に記載の無い操作は行わないでください。

3. 本品について

本品は全自動血圧計の性能及び安全性を確保するための定期点検用キットです（行えるのは点検のみです。調整や修理、部品交換は行えません）

4. 本品の内容物

◆本書

◆疑似腕　◆Y 字シリコンホース
（直結コネクタ付き）

5. 別途ご用意いただくもの

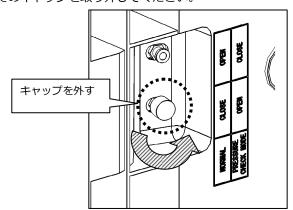
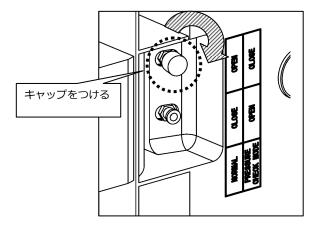
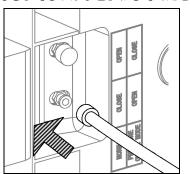
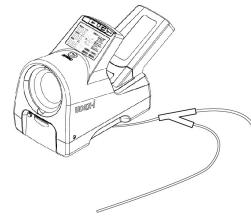
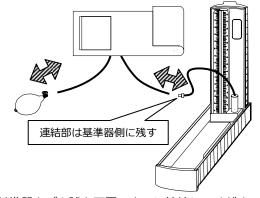
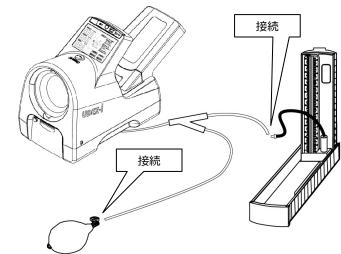
- 校正された圧力基準器
- タオル

6. 点検手順

点検は４つのステップで行います(作業時間：約４５分)

ステップ 1/4　準備

①. 別項[9.点検リスト]に、点検日、点検者を記入してください。
②. 血圧計本体の電源が入っていない事を確認してください。
③. 血圧計本体が専用架台に固定されている場合、取り外してください。
④. 血圧計本体の横にタオルを敷き、横にして寝かせてください。

⑤. 血圧計本体底面の点検口にキャップが付いている事を確認し、そのキャップを取り外してください。

⑥. 取り外したキャップを点検孔の隣にある排気口に取り付けてください（緩みが無くなるまでしっかりとまわしてください）

⑦. シリコンホースの直結コネクタを点検口に取り付けてください（緩みが無くなるまでしっかりとまわしてください）

⑧. 寝かせていた血圧計本体を元に戻し、シリコンホースを血圧計本体脇から出してください（底面のゴム足などでシリコンホースを潰さないように注意してください）

⑨. 圧力基準器からカフとゴム球を取り外してください。

⑩. 圧力基準器とゴム球を下図のように接続してください。

ステップ 2/4　圧力値の点検

①. ゴム球の排気バルブが開いている事を確認してください。
②. 別項[7.メンテナンスモードの入り方]を実行し、モード番号を 10 にしてください。

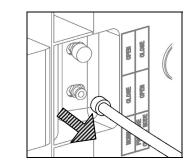
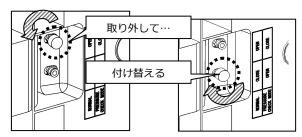
注意 *説明に無い表示になった場合、指定外の動作モードになっています。その場合、①からやり直してください。*

③. 腕帯部に疑似腕を入れてください。
④. **非常停止ボタン**を押してください(最高血圧部と最低血圧部に今の圧力値（0mmHg）が表示されます)

⑤. ゴム球の排気バルブを閉じてください。
⑥. ゴム球で送気して、血圧計本体の圧力表示値を 285mmHg に合わせ、送気による圧変化が落ち着くまで１分間放置してください。
⑦. １分経過したら､圧力表示値と圧力基準器の指示値との差が±6mmHg 以内である事を確認してください。

参照 *範囲外の場合、別項[8.点検エラーの場合]を参照ください。*

ステップ 3/4　安全装置・加圧/排気時間の点検

①. ゴム球の排気バルブが開いて排気している事を確認してください。
②. 疑似腕を取り出し、血圧計本体の電源を切ってください。
③. 血圧計本体の腕帯部に空気が残っている場合、腕帯部を手で軽く押して空気を抜いてください。
④. 血圧計本体をタオルの上に横にして寝かせてください。
⑤. シリコンホースの直結コネクタを点検口から取り外してください（直結コネクタごと取り外して外してください）

⑥. 排気口からキャップを取り外し、そのキャップを点検口に付け替えてください(緩みが無くなるまでしっかりとまわしてください)

⑦. 寝かせていた血圧計本体を元に戻してください。

⑧. 別項[7.メンテナンスモードの入り方]を実行し、モード番号を 10 にしてください。

⑨. **スタートストップボタン**を６回押し、モード番号 16 にしてください。

注意 *説明に無い表示になった場合、指定外の動作モードになっています。その場合、①からやり直してください。*

⑩. 腕帯部に疑似腕を入れてください。

⑪. **非常停止ボタン**を押してください。ポンプが駆動し安全装置の点検を開始します。

注意 *ポンプが駆動せず圧力が上昇しない場合、指定以外のボタンを押した事により加圧安全装置が作動してしまった可能性があります。その場合、①からやり直してください。*

⑫. 圧力値が３００mmHg 以上になった後、自動的に急速排気する事を確認してください（このとき、最低血圧表示部は０点滅を繰り返します）

参照 *300mmHg を超えても加圧しつづける場合、速やかに電源を切り、別項[8.点検エラーの場合]を参照ください。*

⑬. 腕帯部の空気が抜けている事を確認してください(空気が残っている場合、抜け終わるまでお待ちください)

⑭. **スタートストップボタン**を押してください。ポンプが駆動し加圧／排気時間の点検を開始します。

注意 *ポンプが駆動せず圧力が上昇しない場合、指定以外のボタンを押した事により加圧安全装置が作動してしまった可能性があります。その場合、①からやり直してください。*

⑮. **ボタン**に触れずに圧力表示が停止するまでお待ちください。

⑯. 加圧／排気時間が表示されます。各表示時間が規定時間内である事を確認してください。

最高血圧部：加圧時間　　10 秒以内

最低血圧部：微速排気時間　13〜18 秒以内

脈拍数部　：急速排気時間　3 秒以内

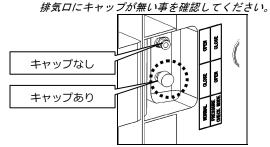
参照 *規定時間内に収まらない場合、別項[8.点検エラーの場合]を参照ください。*

ステップ 4/4　点検後の動作確認

①. 疑似腕を抜いてください。

②. 電源を切り、再度電源を入れてください。

③. 血圧測定を行い、正常に測定が出来る事を確認してください。

注意 *加圧に時間がかかったり、測定エラーとなる場合、血圧計本体底面のキャップが正しく取り付けられていない可能性があります。下図のように点検口のキャップが締まっていて、排気口にキャップが無い事を確認してください。*

④. 別項[9.点検リスト]に、総合的な点検結果を記入してください（１つでも異常な項目があった場合、NG となります。別項[8.点検エラーの場合]を参照ください。）

⑤. お疲れ様でした。以上で点検完了です。

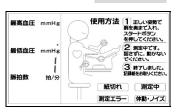
7. メンテナンスモードの入り方

①. 電源が切れている事を確認してください。

②. **非常停止ボタン**を押したまま、電源を入れてください（**非常停止ボタン**は押したままにしてください）

③. 測定値表示部が全点灯（８８８表示）した後、血圧計のソフトウェアのバージョン（３桁）が表示されます（**非常停止ボタン**はまだ押したままにしてください）

④. バージョンが表示されている間に**スタートストップボタン**を押してください（**非常停止ボタン**を押したまま、**スタートストップボタン**を押し続けてください）

⑤. 約５秒後、♪ピッという音と共に下記表示になるまでお待ちください。（下記表示になったら**両方のボタン**を離してください）

⑥. **スタートストップボタン**を６回押し、モード番号７にしてください。

⑦. **非常停止ボタン**を押してください(バージョン番号が点滅します)

⑧. **非常停止ボタン**と**スタートストップボタン**を５秒間押し続けてください。

⑨. 最低血圧部に 10 と表示されます。
この状態がメンテナンスモードです（下記表示になったら**両方のボタン**を離してください）

参照 *説明に無い表示になった場合、指定外の動作モードになっています。その場合、電源を切り、①からやり直してください。*

8. 点検エラーの場合

まず、下記項目をご確認ください。

- ホースの接続が正しくない可能性があります。
　→点検手順を確認して正しくホースを接続してください。
- 血圧計本体底面の排気コネクタ及び点検コネクタのキャップ部に緩みがある可能性があります。
　→点検手順を確認してしっかりと取り付けてください。
- 圧力基準器が校正されていない。
　→校正された圧力基準器で再度確認を行ってください。

以上の項目に当てはまらない場合、血圧計本体の調整や修理、部品交換が必要です。血圧計本体の取扱説明書にある窓口までお問い合わせください。

9. 点検リスト

点検日	点検者	点検結果 (OK ・ NG)	備考

2010 年 3 月発行
(M860900A)